



ゴリラとチンパンジー

前回からずいぶん時間がたってしまいましたがその間色々なことがありました。このホームページをご覧になっている方はご存知かと思いますが雌のゴリラ「アキ」が亡くなりました。享年31歳（推定）…死因は心筋梗塞による急性心不全でした。

平成20年5月25日の日曜日、朝から冷たい雨がシトシト降る動物園としては最悪の天候の日でしたが、開門の頃は小降りになってきたためゴリラもいつものように放飼場に出しました。10時を過ぎた頃でしょうか、最初に異変に気づいたのは園内の清掃員でした。雄の「ディスク」が、寝ている「アキ」を叩いているとの連絡がありました。飼育員が急行したとき、アキは放飼場内の小さな池に仰向けに倒れ、すでにこと切れているようでした。飼育員総出で池から引きずり上げ、意識のないアキを懸命に介抱しました。心臓マッサージや人工呼吸とあわせ自動対外式除細動器も使いました。30分ぐらいそうしていたでしょうか、しかし絶命したアキはついに意識を戻すことなく旅立っていきました。おそらく一番先に気がついたディスクが突然倒れたアキに驚き駆け寄ったところを清掃員は叩いているという仕草に見てとったのかもしれない。その後飼育員が駆けつける間にディスクはうつ伏せになっていたアキを反転させ仰向けにしたところそのままゴロンと小さな池に滑っていったものと思われる。事実、外傷の跡は見られず近くの動物病院の協力で頭部CT撮影をしても異常は見られませんでした。解剖の結果心臓の冠動脈に閉塞が認められました。いわゆる心筋梗塞によるものと思われる。

アキはディスクと26年間同居（一時別居の時期もあった）していたのですが自然繁殖にいたらないため、ほかの動物園で繁殖させようと計画していた矢先の出来事でした。それだけに我々としてもただただ残念でなりません。ディスクはアキに遅れること1年後にかみねにやってきましたが、長い年月をこの動物園で一緒に過ごしペアというよりは姉弟のような関係だったのかも知れません。そうした意味では最期をディスクに看取られて亡くなったことはせめてもの救いだったのかも知れません。

そんな悲しい出来事的一方、動物園では新しい施設の建設が着々と進み、いよいよ新チンパンジー舎（チンパンジーの森）がオープンしようとしています。平成20年6月28日に記念式典を行い、同時に一般公開を始めます。今度の施設は以前の数倍の広さを持ちチンパンジー達がのびのびと暮らせるように、またお客様にもチンパンジーの生態を通して喜んで観察してもらえよう様々な仕掛けがほどこされています。まず樹上生活者である彼らのために3本のタワーを設けこれをいくつかのロープでつなぎました。太平洋が一望できる11メートルのタワーは私も登りましたが足がすくみます。放飼場には観覧ドームを設置し、中に入ったお客様と人間に興味を持ったチンパンジーの接近遭遇を体験できます。また、最近のチンパンジー舎では定番となりつつありますが、道具を使う彼らの特性を引き出すアリ塚やナッツ割りなどの仕掛けもつくりました。室内観覧室にも加工した自然木とロープを使い退屈しないよう心がけました。

すでにチンパンジーたちは引越しを終え、新しい施設に慣れる訓練をしています。引っ越した当初、彼らは一様に周囲や天井を見上げキョロキョロしていた姿が印象的でした。また、放飼場に出したときも見慣れぬタワーや広いグラウンドに戸惑う様子がありありと見て取れましたが慣れるとすぐにあっちこっち遊び始めました。今回は一般公開前にホームページをご

覧の皆さまだけにそうした光景の一部お見せします。興味を持たれましたら是非みなさんお誘いあわせの上ご来園ください。なお、チンパンジーは今4頭ですが近日中に2頭増やし、6頭での生活をお見せできることと思います。

平成20年6月22日 園長 生江信孝



チンパンジーの森全景



ゴヒチ、ルナ、ジュンコが参上



ロープを伝うジュンコ



高いゾ。太平洋が一望



どちらが見られてる？



室内観覧室・ち、近い

2008年6月22日

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)